

3 病院研修要項

1) 目標

- (1) 成長発達段階・健康レベルにある対象を総合的に理解する。
- (2) 科学的根拠に基づいた看護実践ができる。
- (3) 能力および専門職業人としての態度を養う。
- (4) 日常生活援助及び診療の補助技術を学ぶ。
- (5) 病院における看護の特性、看護職の役割と機能を学ぶ。
- (6) 病院における地域連携・退院支援活動を知り、継続看護の必要性が理解できる。

2) 期間・場所

- (1) 1年目
 - ① 病院新人看護職員研修に参加および病棟等で実習する。
 - ② 前期（1～2か月）は6月～が望ましい。
 - ③ 中期（1～2か月）・後期（予備日・2～4週間）とする。
- (2) 2年目
 - ① 慢性期・回復期・療養型・地域ケア病棟で実習する。
 - ② 期間は協議し決定する。

3) 内容

- (1) 1年目
 - ① 新人看護職員研修：入職時（4月頃）
新人看護職員研修に参加する。
 - ② 前期研修（6月頃から）
 - ア 日本看護協会「看護者の倫理綱領」を看護職の基本理念として理解する。
 - イ 病院の組織、管理・運営、特性を理解し、病院における看護職の役割を知る。
 - ウ 病院の看護の特性、役割、機能を知る。
 - エ 受け持ち患者の看護の展開を知る。
 - オ 多職種との連携のあり方を知る。
 - カ 日常生活援助と診療の補助技術を理解し、実施できる。
 - キ 病院で実施されている医療処置やME機器の原理を知る。
 - ③ 中期研修（11月頃）
 - ア 入院から退院まで、24時間行われる治療や看護を知り、在宅でのリスク予測ができる。
 - イ 病院の夜間の支援体制を知る。
 - ウ 受け持ち患者の看護過程の展開と関連図の変更ができる。
 - エ 多職種との連携やチーム医療の実際を学ぶ。
 - ・ 病棟・外来・NST・感染・地域連携室・緩和チーム・WOC 外来と病棟回り・がん化学療法や相談等の看護技術について学ぶ。
 - ・ 抗がん剤治療の実際や病院での指導を知り、利用者の不安を軽減できる支援に役立つ。

- ・ 外来看護師がどのようなアドバイスをしているのかを知り、活用する。
- ・ 専門・認定看護師の役割を知る。
- ・ 地域連携部署の看護職の退院支援における役割を知る。

オ 日常生活援助と診療の補助技術を理解し実施できる。

カ 病院で実施されている医療処置やME機器の使用方法の実際を知る。

④ 後期研修（2月頃）

必須ではないが前期・中期でできなかったことを実施する。

(2) 2年目

- ① 慢性期・回復期・療養型・地域ケア病棟の役割や専門性・特色を知り、訪問看護師としての連携を学ぶ。

4) その他

(1) 重視する点

- ① 新卒看護師を地域で育てる視点を指導者間で共有するとともに、新卒看護師相互が良好な関係を築くことができる
- ② 在宅で確実な看護技術が提供できるよう、病院研修時に集中的にケアを実施し、技術面での経験値をあげる。
- ③ 新卒看護師として臨床に出る立場としてのスタートは、病院も訪問看護も同じであるという認識を指導者、本人が共有し、相互に切磋琢磨する関係になる。

(2) 配慮して頂きたい点

なぜその人にその処置が必要なのか理解・実施できる。

(3) 実習病院との協議・確認事項

実習にあたっては、契約書等により、別表の内容について協議・確認を行う。